進捗報告（実行団体）

● 提　出　日　：　2022 年 10 月 12 日
● 事　業　名　：　移民2世・3世のキャリア形成に向けた青少年未来創造事業――「多文化・多世代共創拠点」を目指して
● 資金分配団体　：　公益財団法人日本国際交流センター
● 実 行 団 体　：　特定非営利活動法人ABCジャパン

① 実績値

【資金支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況＊
1-1　先輩・後輩の交流企画	①参加人数 ②開催数	①1 回につき 20 人以上 ②年 2 回	2023 年 3 月	◆アウトプット平均値①1 回につき 11 人、②年 2 回 ◆根拠情報 参加人数）20 年度：10 人、21 年度：22 人、22 年度：未実施 開催数）4 回	4
2-1　共生・共育多文化フォーラム	①参加人数 ②参加者の所属先の数 ③開催数	①1 回につき 100 人程度 ②15 機関 ③年 1 回以上	2023 年 3 月	◆アウトプット平均値 ①約 72 人、②約 47 機関、③年 1 回 ◆根拠情報 参加人数）20 年度：71 人、21 年度：61 人、22 年度：82 人 機関数）20 年度：約 30 機関、21 年度：約 30 機関、22 年度：約 80 機関開催数）全 3 回	3

3-1　日本人との交流会	①参加人数 ②参加者の所属先の数 ③参加者の出身国の数 ④実施回数	①1 回につき日本人 15 人程度、外国につながる市民 15 人程度 ②10 機関 ③5 ヶ国以上 ④年 2 回	2023 年 3 月	◆アウトプット平均値 ①1 回につき日本人 9 人、外国人 10 人、②11 機関、③5 ヶ国、④年 1 回 ◆根拠情報 参加人数）20 年度　　人：日本人 7 人、外国人 10 人、21 年度：日本人 10 人、外国人 10 人、22 年度：未実施 所属先）20 年度：13 機関、21 年度：10 機関 出身国）20 年度：5 ヶ国、21 年度：5 ヶ国 実施回数）2 回	4
3-2　母語・母文化を学ぶエンパワメント教室（オンライン）	①参加人数 ②教室開催数 ③対象地域数	①ブラジル講座で 1 回 30 人程度、中国講座で 1 回 5 人程度 ②ブラジル講座で 100 回、中国講座で 35 回 ③8 地域以上	2023 年 3 月	◆アウトプット平均値 ①ブラジル講座で 1 回 28 人程度、中国講座で 3.5 人程度、②ブラジル講座で約 75 回、中国講座で約 24 回、③8 地域 ◆根拠情報 参加人数）20 年度：ブラジル 5 人、中国 4 人、21 年度：ブラジル 25 人、中国 4 人、22 年度：ブラジル 52 人、中国 3 人 教室開催数）20 年度：ブラジル 88 回、中国 8 回、21 年度：ブラジル 88 回、中国 45 回、22 年度：ブラジル 48 回、中国 17 回 地域数）20 年度：4 地域、21 年度：8 地域、22 年度：12 地域	2
4-1　青少年対象のキャリア形成のための日本語教室（対面・オンライン）	①参加人数 ②教室開催数 ③対象地域数	①1 回につき 25 人程度（対面）／80 人程度（オンライン） ②230 回 ③10 地域以上	2023 年 3 月	◆アウトプット平均値 ①1 回につき約 20 人（対面）／58 人（オンライン）、②140 回、③10 地域以上 ◆根拠情報 参加人数）20 年度：22 人（対面）、63 人（オンライン）、21 年度：15 人（対面）、65 人（オンライン）、22 年度上：21 人程度（対面）／45 人（オンライン）	2

				開催数）②20 年度：128 回、21 年度：177 回、22 年度：114 回 地域数）20 年度：10 地域以上、21 年度：10 地域以上、22 年度：10 地域以上	
5-1　青少年のための心理カウンセリング（対面・オンライン）	①相談件数 ②相談を受けた生徒数 ③対象地域数	①100 回 ②50 人 ③5 地域以上	2023 年 3 月	①244 回 ②90 人 ③6 地域	2
6-1　外国につながる高校生・若者キャリア相談会	①参加人数 ②キャリア相談会参加機関数 ③参加機関の領域・分野数 ④マッチング数	①1 回につき 100 人程度 ②1 回につき 7 機関 ③7 領域・分野 ④5 件以上	2023 年 3 月	◆アウトプット平均値 ①1 回につき 75 人、②1 回につき 10 機関、③8 領域・分野、④2.3 件 ◆根拠情報 参加人数）20 年度：50 人、21 年度：55 人、22 年度：120 人 参加機関数）20 年度：5 機関、21 年度：5 機関、22 年度：20 機関 領域・分野）20 年度：5 領域・分野、21 年度：5 領域・分野、22 年度：14 領域・分野 マッチング数）20 年度：2 件、21 年度：0 件、22 年度：5 件	2
6-2　WEB 教室	①講座登録者数 ②対象地域数（都道府県及び海外）	①1 講座につき 60 人程度 ②国内：7 地域以上、海外：3 ヶ国以上	2023 年 2 月	①電気工事士試験対策講座登録者：23 人 ②国内：7 地域（神奈川、愛知、群馬、茨城、東京、三重、島根）	3
7-1　多文化・多世代協働拠点	①連携相談件数 ②連携事業件	①1 年につき相談 20 件 ②事業 3 件程度	2023 年 3 月	◆アウトプット平均値 ①連携相談件数：約 12 件、②連携事業件数：1.5 件 ◆根拠情報	2

	数			相談件数）20 年度：10 件、21 年度：15 件、22 年度：10 件 事業件数）20 年度：1 件、21 年度：2 件、22 年度：2 件	
8-1　外国人家庭対象のフードパントリー	配布件数	1 か月につき 30 件程度	2021 年 3 月	1 か月につき 35 件程度	1

＊進捗状況：1 計画より進んでいる 、2 計画どおり進んでいる 、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 ☑変更なし　☐短期アウトカムの内容　☐短期アウトカムの表現　☐短期アウトカムの指標　☐アウトカムの目標値
3.（任意）活動に関する報告
◆外国ルーツ青少年のキャリア形成 **①外国につながる中学・高校生・若者のための「教育フェア」** 高校進学ガイダンスを午前部、大学進学＆キャリアガイダンスを午後部とした「教育フェア」を開催し、外国ルーツの青少年や保護者が進学や仕事の情報を得たり、個別相談を通して、自分の進路やキャリアについて考えるための場を設けた。昨年度までのキャリア支援相談会の発展形として、より幅広い情報を参加者に提供できる形での開催となった。企画主旨に賛同した JICA 横浜の協力により、会場として広い体育館を無償で借りることができた。 当日は、外国ルーツの生徒の受け入れに力を入れている（あるいは関心のある）関東近郊の大学、英語で授業が受けられる大学、卒業後の就職支援が充実している各種専門学校、安い学費で正規雇用につながる勉強のできる県立短大、多言語で様々な資格取得対策ができる職業訓練校、就労支援機関、ビザ等の相談もできる行政書士事務所、在住外国人の生活や就労相談を行う入管のセンター、多国籍人材の企業、日本語教材版元など、20 団体がブース出展と個別相談を実施。 県内各地や茨城、群馬等から外国ルーツの中高生や保護者、学校教員が多数参加し、同時通訳による多言語対応ガイダンスを聞き、個別

相談では各ブースで具体的な進学やキャリアの相談をしている姿が見られた。群馬県大泉から参加したブラジル出身のある高校生は、これまでほとんど自分の町から出たことがなく、非常に限られた世界で暮らしていたが、ABC ジャパン群馬支部のコーディネーターの引率でフェアに参加して、外国ルーツの先輩たちと交流し、将来につながる様々な情報を知り「人生が変わった」という。高校卒業後は親と同じように工場で働く予定だったが、教育フェアで多くの人に会い、情報を得たことで具体的な将来の道が見え、大学を受験することになった。

ブース出展者、学校教員、支援者等、様々な立場で外国ルーツの青少年に関わる多様な人たちが一堂に会することで、活発な情報交換や交流も行われていた。これまでの当団体の活動の蓄積により、このように多くの団体や人々に参加してもらえたことは大きな成果だと考えている。ブース出展の全団体から、ぜひ来年以降も参加したいという希望を聞いている。また、今回は ABC ジャパンとの協働事業パートナーである神奈川県教育委員会が全県の学校に周知してくれたため、小中高の先生方が多く見られた。外国ルーツの生徒が多く通う高校の校長先生からは、素晴らしいイベントなので来年はぜひ生徒たちを連れて参加したいと声をかけられた。先生方が進学・キャリアの情報を得て、学校に持ち帰ってくれる効果はとても大きい。県教委には来年度以降の継続実施についても協定を結ぶ方向で交渉している。

また、会場の JICA 横浜と同じビルに海外移住資料館があるため、通訳付ツアーも実施。資料館の存在自体知らなかった人も多く、多文化共生について学べるよい機会となった。

②日本語教室（対面・オンライン）

対面のフリースクールでは、コロナ第７波に見舞われたものの、入国制限等の緩和によりフィリピンや中国からの青少年呼び寄せが再開され、学齢超過者の新規入国、日本語ゼロのフリースクールへの相談もかなり増加した。特色としては、フィリピン人就労で父が「技術」、家族が「家族滞在」が増えている。労働力不足のため、「工場労働」であっても、「技術」在留資格で、その範囲は広がっている。そのため、フィリピン青少年の「家族滞在」ビザも増え、高校後の進路開拓にも大きな課題がある。

今回、日本国籍、フィリピンルーツの青少年（19 歳）、日本で生まれたが、日本の小学校は５年、６年、２年のみの方が入室した。小学校時代およびフィリピンでも発達検査を受けており、学力的にはかなり課題がある。発達に特性が見られるため、市より青丘社受託の「相談発達センター」に通訳手配を含め繋ぎ、進路および、将来を含めた生活相談をすすめている。青丘社は地域ケア包括事業を行っているため、こうした福祉相談には強味がある。

日本語ゼロ学習者のため、多言語ができるスタッフを積極的に探し、英語スタッフはいたが、中国語が難しかった。ただ、区役所協働事業で若者事業を始めており、そのつながりから中国人学生が関わることになった。多言語スタッフが関わることにより、進路相談はこどもたちの気持ちに寄り添いながらすすめることができ、とても重要な観点である。

高校生日本語教室では、前半の定時制対象枠に、新規の学習者が増えている。主に非漢字圏のフィリピン生徒が多く、ニーズの高さとようやく学習に向き合う生徒が増えたことは事業成果である。青丘社ふれあい館の中学生サポートから高校卒業後フリーターの若者も学びなおしで参加するようになり、10 月キャリア相談会にも参加予定。若者就労支援の分野も新たに開拓されつつあり、今後若者就労事業の拡充が課題である。

オンライン日本語教室については、SNS での発信やこれまでの実績により、関東甲信、関西、中国地方だけでなく北海道、ブラジル、ポルトガルなどさらに広い地域から受講生が集まった。日本生まれだがペルーに 6 年住んで帰国したため日本語に自信がなかったが、教室のお蔭で力がついた、JLPT の N3 に合格できた、これから専門学校を受験する、今まで近くに教室がなくて独学だったが、初めてちゃんとした日本語の教室に通えた、生活の中でわからない言葉などを質問できる場であるのはいいと思う、など毎回の授業でのアンケートには様々な声が寄せられており、日本語を学ぶ意志を持ちながらその機会がなかった外国ルーツの若者に学習の場を届けられている。

JLPT の N２レベルよりも N５レベルの方が学習者のニーズが高いため、9 月から N５教室がスタートした。N５レベルの授業は母語での説明が必要ということで、ポルトガル語での授業であることを打ち出していたが、実際にはフィリピンやベトナム、コロンビア等の出身者からも問い合わせがあり、そうした層に応えることができなかった。また、受講生には現場仕事の人が多く、金曜の夜 7 時からの教室に間に合うように戻れず遅刻や欠席する人も見られた。土曜日も仕事で、唯一の休日である日曜日に教室を設定することも難しい。今後の対応を考えていく必要がある。

◆母語・母文化教室

特に日本生まれ日本育ちの場合は、親が外国人であることや自分がブラジル人であることを恥ずかしく思ったり、マイナスに考えている子どもも多かったが、文化や言葉を知ることでプラスの感情に変化してきている。また、教室で覚えた言葉を使って、来日したばかりのブラジル人の手伝いができたことで、自信につながったという子もいる。

昨年から始まったブラジル政府主催の継承ポルトガル語オリンピック大会がコミュニティに広く周知され、継承語教育に対する親の意識も変わり、教室参加希望者が増加。9 月スタートの新学期では、１クラス増えてレベル別の３クラスになった。ブラジル総領事館も力を入れており、全国各地からの参加がある。ABC ジャパンは昨年に引き続き事務局を担っている。7 月実施のオリンピック大会では、本教室の生徒が優勝して総領事から表彰され、親子そろって非常に喜んでいる姿が見られた。

昨年度発行した継承ポルトガル語教材は、内容がとてもいいので、自分のポルトガル語教室で使いたいという問い合わせもあり、今後連携した形でできないか検討中。既刊２冊の教材は日本生まれの子どもには少し難しかったため、より基礎的な教材１冊とイラスト辞典のような教材を制作中。

◆カウンセリング（心理・キャリア支援）

思春期時における来日に伴う友だち学校などとの別れの処理に加えて、日本・中学校生活・日本語の学習・高校受験勉強など多くの課題に直面し、不安が高い状態にある高校生や、学習面や人間関係での不安を抱える中学生、学校への不適応による登校渋りがあり、発達検査が必要で母親支援も同時に行っている中学生など、さまざまな課題を抱えた外国ルーツの青少年に対し、母語なども使ったカウンセリングを行い、何か難しいことに直面し、相談したいときには連絡を取れる状態にしている。学校とも連携をとりながら対応している。

キャリア支援相談としては、進学先や受験準備、就職に関する相談や学校内での友人や先生との関係、成績、資格試験、受験のプレッシャーによるストレスなどの悩みが寄せられた。また、家庭についての相談では、親の再婚相手との折り合いの悪さやヤングケアラーとしての大変さなどそれぞれに抱えている問題についての相談がきているので、自分だけでため込まずに少しずつでも吐き出せるようにきめ細かくサポートを行っている。

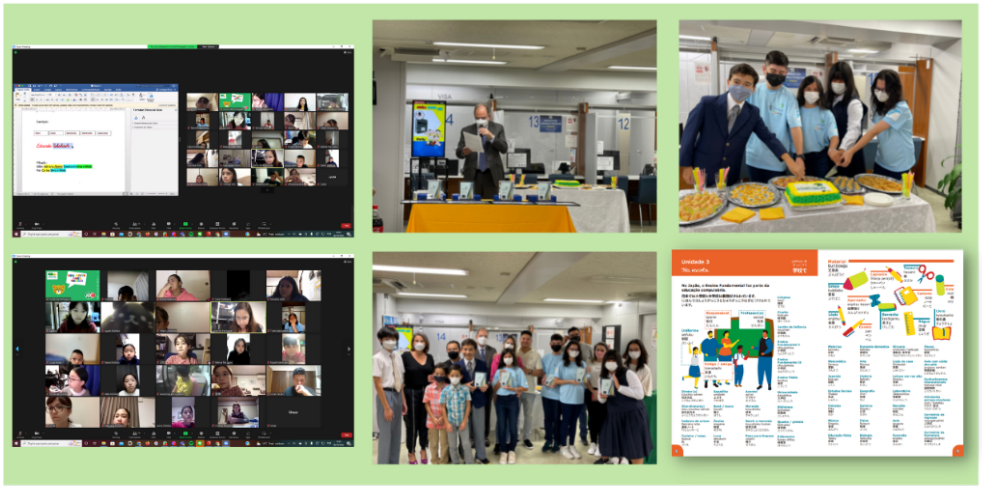
③　広報に関する報告

1.　シンボルマークの使用状況
☑自団体のウェブサイトで表示している　　☑広報制作物に表示している ☐報告書に表示している　☐イベント実施時に表示している　☐その他 →「その他」を選択した場合は記載してください（自由記述）：
2.　広報
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB 等） 2.広報制作物等 ・「JLPT オンライン日本語教室チラシ」（デジタル：以下同） ・「ルーツの言葉＆文化を学ぶ教室チラシ」 ・「第二種電気工事士試験対策講座チラシ」 ・「外国につながる中学・高校生、若者のための教育フェア」チラシ（デジタル＆印刷物）、当日配布用資料、出展者リスト 3.報告書等 4.イベント開催等（シンポジウム、フォーラム等） ・2022 年 8 月 27 日(土)「外国につながる中学・高校生・若者のための教育フェア」 概要：高校進学ガイダンスを午前部、大学進学＆キャリアガイダンスを午後部として 1 日にまとめて「教育フェア」という形で実施し、外国ルーツの子どもや保護者、教育関係者等が参加し、進学・進路について情報を得たり、情報交換・相談を通して、進学や進路について考えていくための場を設けた。外国ルーツの先輩の体験談や交流、大学、専門学校、職業訓練校、行政書士、入管等、幅広い分野からのブース出展もあり、子どもや保護者だけでなく、学校教員や支援者、出展者にとっても、情報交換・情報収集の貴重な場となった。海外移住資料館ツアーも実施したことで、移民の歴史や多文化共生についても学べる機会もあわせて提供することができた。 場所：JICA 横浜体育館（桜木町） 参加人数：約 180 人（うち外国につながる中学・高校生、若者、保護者、学校教員、支援者等：120 人）

添付資料

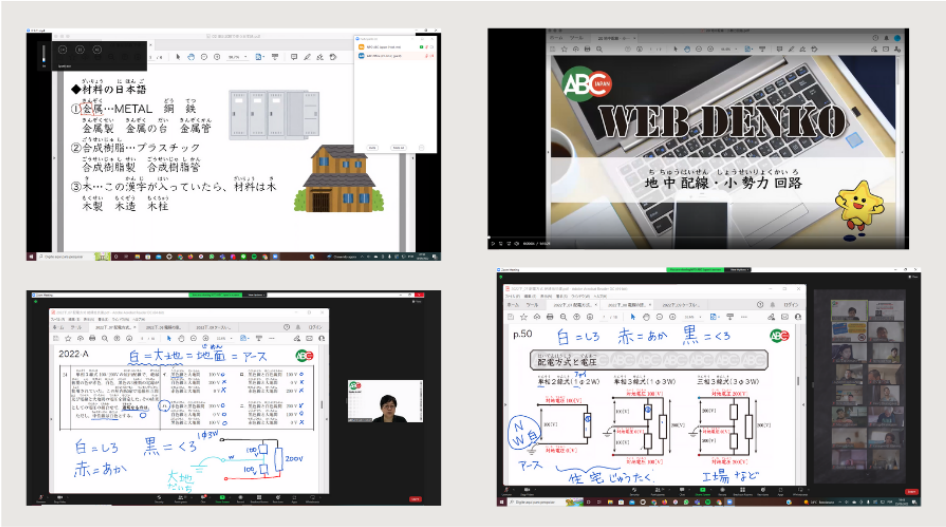
活動の写真（画像データは 1 枚 2 MG 以下、3～4 枚程度）

写真①
2022 年 8 月 27 日実施
「教育フェア」の様子



写真②
母語・母文化を学ぶ教室
継承ポルトガル語オリンピック大会の様子

写真③
JLP 対策オンライン
日本語教室の様子



写真④
第二種電気工事士試験
対策オンライン講座